記　入　例

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

益田市

調査日時	令和　○　年　○　月　○　日（○）　　○　時		
調査者氏名	○　○　　○　○	連絡先	TEL　○○-○○○○
調査者住所	益田市　○町　○－○		

調査者の資格等は問いません。
押印は不要です。

いずれかにチェック記入。

Ⅰ）建築物の概要			
1　建築物の所有者	○　○　　○　○		
2　建築物所在地	益田市　○○町　○－○		
3　階数	☑平屋建て　　□2 階建て	4　床面積	○　○　　㎡

Ⅱ）前提条件の確認	
1　構造・用途	☑木造の住宅であること
2　建築年月日	☑昭和 56 年 5 月 31 日以前に新築の工事に着

前提条件2項目の両方ともチェックが入らないと本調査票は活用できません。

Ⅲ）一見して倒壊の危険性があると判断できる項目	
1 つでも該当した場合は、倒壊の危険性があると判断される可能性があり	
建物全体	□全体又は一部に崩壊がある
	□全体又は一部に傾斜や変形がある　※注 1
地盤・基礎	□地盤沈下が生じている
	□基礎がコンクリート以外（玉石、石積、ブロック等）である
	□基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる　※注 2
老朽・腐朽	□柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある
	□柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽がみられる
	□柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損がみられる

Ⅳ）壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が 0.8 未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できます。建物の平面図等を用意して、建築課にご相談ください。

【添付書類】
□木造住宅が確認できる写真（建物全景の写真）
□倒壊の危険性がある部分の写真
□Ⅳ）壁の割合にて算出する場合は、建物の平面図面等

※注1　建物の傾斜は概ね1/60の勾配を超えるものをいいます。
※注2　ひび割れとは、幅0.3㎜以上の構造クラックをいいます。
（表面の微細なクラックでは対象となりません）

以下、益田市記載欄（記載しないでください）

受付印	倒壊の危険性	
	□	
	備考	

・この調査票は、２階建て以下の木造建物に活用せきます。（３階以上となると活用できません）
・調査票作成を第三者に依頼しても構いませんが、補助の対象経費とはなりません。

記入例

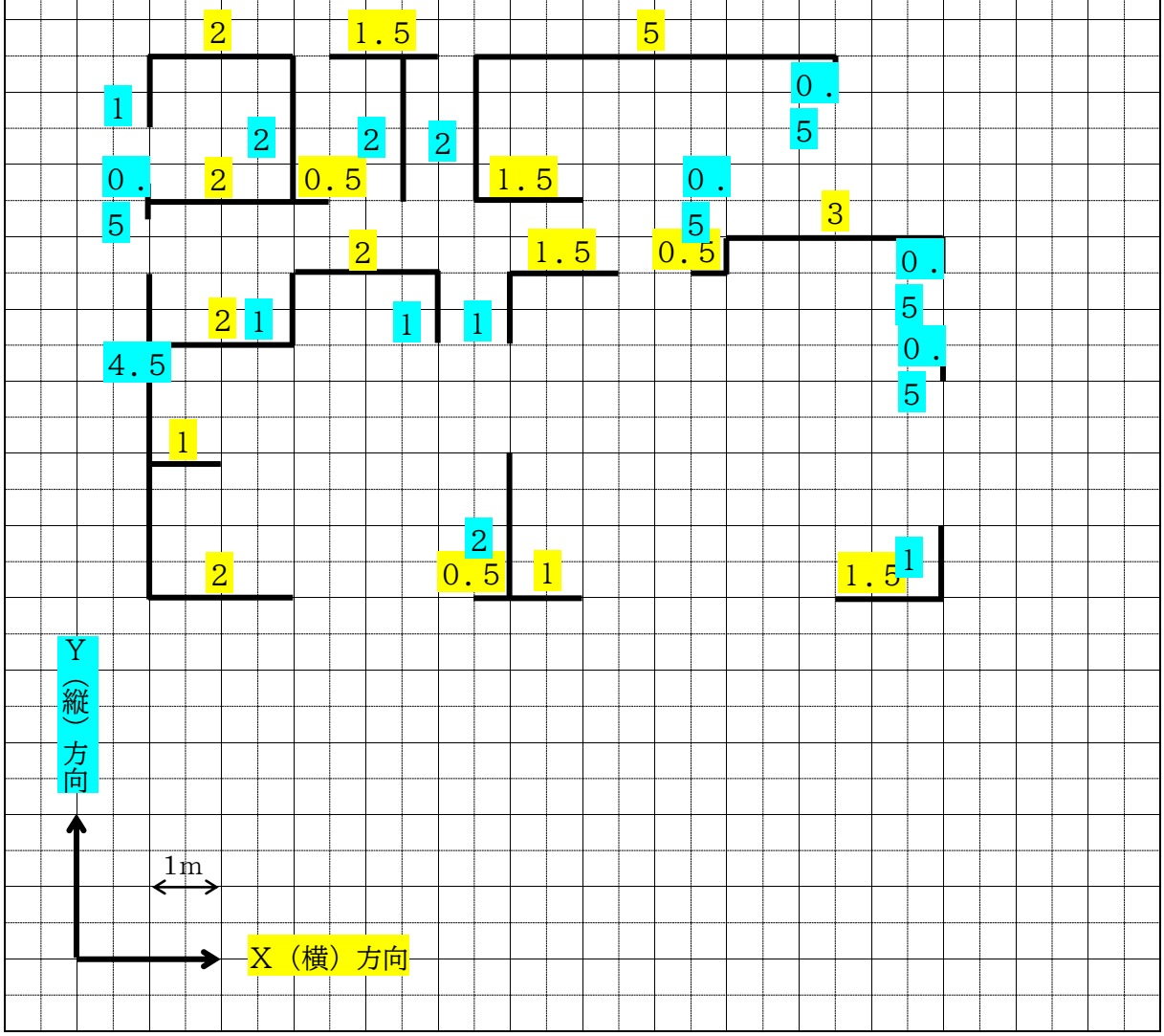
（別紙）

Ⅳ）壁の割合　記入用紙

壁の長さの計測

壁の長さを計測して記入してください。

・１㎝で１ｍとして記入してください。
・５㎜方眼です。
・計測した長さをそのわきに記入してください。
・窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
・２階建ての場合は１階部分のみ記入してください。



（イ） 壁の長さの合計

建物のＸ（横）の壁の長さの合計を記入。

① Ｘ（横）方向

①	
２７．５	m

② Ｙ（縦）方向

②	
２０	m

建物のＹ（縦）の壁の長さの合計を記入。

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ	
２０	m

（ロ） 面積

平面図から、面積を㎡単位として求めて記入。

ロ	
７５	㎡

（ハ） 単位面積あたりの壁の長さ

イ		ロ		ハ
２０	÷	７５	＝	０．２７

（イ）欄「壁の長さ」を（ロ）欄「面積」で割った値を記入。

（ニ） 必要な壁の長さ

下表から該当するものを選んで記入。

ニ	
０．２０	m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類＼階数	平　家	２階建
軽い屋根（鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等）	０．２０	０．５２
重い屋根（かや葺・瓦葺等）	０．２７	０．５９

（ホ） 壁の割合

ハ		ニ		ホ
０．２７	÷	０．２０	＝	１．３５

（ハ）欄を（ニ）欄「必要長さ」で割った値を記入。

（ホ）欄が 0.8 未満である場合は、倒壊の危険があると判断できます。